

年 組 名前：

国内唯一の女性ペンキ絵師

「銭湯壁画は大衆芸術」

東京都のペンキ絵師田中みずきさん(39)が、前橋市にオープンする道の駅の温浴施設に幅約40センチの壁画を描いた。国内で現役のペンキ絵師は数人で最少の田中さんは唯一の女性とされる。「見る人の理想の風景が詰まった大衆芸術。この技術を極めたい」と魅力を語る。

7月中旬、田中さんは約2階の足場の上で滑らかにほけを使い山や雲に陰影を描き込んでいた。前橋の四季を感じてもらおうと地元を代表する日本百名山の赤城山や桜、紅葉を絵巻物のように並べた。色の濃さを変えて遠近感をつけ、空間が広く感じられるように工夫し5日間で仕上げた。

都内の大学で美術史を専攻し卒業論文の題材を考えていた大学2年の時、好きな画家が描いた銭湯をモチーフとした絵をきっかけに興味を持った。人生で初めて銭湯を訪れると「まるで絵の登場人物になったような、世界に入り込む感覚があった」という。一方で入浴客が絵の存在を気にしておらず、生活に溶け込んだ様子にも魅了された。

銭湯の衰退に伴いペンキ絵師は減少の一途だった。「100年後には文化が消えてしまう。自分で技術を身に付ける」と決意。大学3年で絵師の一人に弟子入りした。最初の3年ほどは空しか描かせてもらえなかったが、9年間の修業を経て2013年に独立。年間20〜30の作品を手がける。発注元は商店街やホテル、介護施設と多岐にわたる。英国の個人宅から依頼を受けたことも。絵は補修のため2〜3年で描き変える。作品が残りにくいだけに技術の継承が課題だ。弟子入りの希望は複数あるものの、今は理想の「何も考えないで見られる絵」を求めながら「あと5年は自分の技術を高める。後継者はそれから」と考えている。

(2022年7月31日付 山梨日日新聞19面)

問1 「ペンキ絵師」とは、どのような職業(職人)ですか。

.....

問2 ペンキ絵師の田中みずきさんは、ペンキ絵師の魅力を、どのように語っていますか。

.....

問3 田中さんが、初めて銭湯を訪れた時に、何を感じ、何に魅了されましたか。

・感じた： .....

・魅了された： .....

問4 田中さんは、自分が理想とする絵を、どのような絵と語っていますか。

.....